

# 常磐毎日新聞

定価 一部金紙一ヶ月五拾銭 郵費五拾銭  
廣告料 五號十二字 行金五拾銭  
日曜祭日の翌日休刊  
発行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

## 嫁を貰ふなら

これだけ知らねば損  
森澤 允晴

【一】

温順で素直で美人で金持  
でと申した處で、好事魔多  
しとやら、夫れ家柄が何ん  
だとか、夫れ合性が悪いと  
か、兎角帯に短し褌に長し  
なくて七癖あれば四十八癖  
で、矢つ張りよい加減の所  
で極りをつけねば限りがあ  
りませんが、併し運命學の  
方から申しますと、皆さん  
も既に御承知の如く空亡關  
係を調べ、互にこれを侵さ  
ぬやうにすると云ふことが  
大切であります、それに  
も増して特に御注意申し上  
げ度いのは「剛」と云ふ星を  
持つて居る婦人で、この星  
を持つた婦人を嫁に貰つた  
ら最後大變であります。大

## ノート

白蟻は十  
年掛りて  
二丈餘の  
巢を作る  
ことがある、  
その體を  
一分とすれ  
ば二千倍、  
人間なら富  
士山位の  
家を建てる  
と同じ。

事の／＼息子の命取りと云  
ふことになり、これは  
俗に云ふ亭主を喰殺す女と  
か、幾人夫を換へても皆死

別の悲しむを見る婦人が此  
の星の所有者であります。  
故にどうしても嫁を貰ふな  
ら十分にこの星の有無を調  
べねばなりません。

「剛」星は大自然の靈氣的  
神祕力たる生年月日時より  
抽出される先天星の生剋制  
化の關係を究めて、初めて  
発見される星でありまして  
之は最高級の運命學たる先  
天運推理解を研究し其の大  
奧秘を修得した者でなけれ

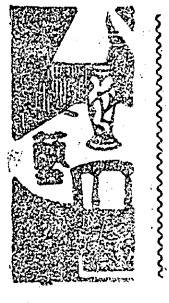
- ★0000000000★  
○明日の献立○  
◎0000000000◎

【朝】味噌汁：うど  
小付 とうがらし佃  
煮

【晝】焼魚：鮮魚  
【晚】オムレツライス  
カロッポドポテート

ば分らないのであります。  
つまり各自の生年月日時  
比較對照に因つて此の星の  
有無を發見することが出來  
るものでありますから、同  
年生れの者でも、此の星を  
持つた者と持たぬものとが  
ある譯であります。故に九  
星の如く生年だけから見て  
相性の吉凶を判斷する類と  
は全く異つたものでありま  
す。

世間では丙午生れを嫌ふ  
が夫れは全くの迷信で何等  
の心配は要りません、又相

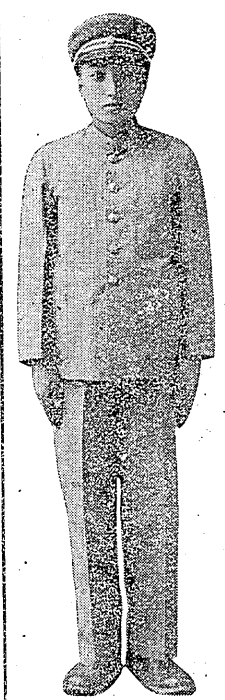


## 秋・雜詠

飯田 殘雪

夕霧や火事あると云ふ遠  
き空  
あかつきの霧に人馬のす  
がたかな  
去來忌や君が發句の秋の  
風  
冷かや悪病はやる山の里  
宵宮の藪におどろく火花  
かな  
病む友の身を氣づかへば  
ちゝる虫  
乙女ふたり時を越ゆる星  
月夜  
秋祭雨になりたる見もの  
かな

## 冬の通學服賣し



中學生用 六号 四〇〇  
國防色 七号 四二〇  
黒小倉服 A六号 三三〇ヨリ  
特A六号 三三八〇ヨリ  
別注文 國防色 五五〇均一  
特A黒小倉 六四二〇均一

三平電 店服洋やかふ

## 近日開店

お食事と  
味覺の秋を好機にデビューします  
感じのよい經濟的な食堂です  
喫茶の店  
今成食堂  
平町三丁目 警察署通り

## 御料理 折詰 仕出し

## 松茸料理を

始めました

平二巻窓墨通リ  
魚清食堂  
電話六三三

看護婦急派  
求めに應じ  
ます  
平町南町  
平看護婦會  
電話三七〇  
安齊 外科醫院  
平町・田町  
電話四七五番

福祿ストロップ福引  
景品總額五萬圓  
期間昭和十年九月廿五日ヨリ十二月二十日マデ  
賣出規定  
福引券 ストロープ御買上ノ方ニ左ノ割合ニテ  
華呈致シマス。

抽籤發表 昭和十一年二月十一日 東京朝日新聞  
發表致シマス。  
景品引換 昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日迄  
福引券引換ニ最寄ノ代理店ニテ景品ト引換致シマス  
景品 福引券一千枚ヲ以テ一組トシ當選ノ  
方ハ左ノ景品ヲ差上グ  
一等 百圓  
二等 參拾圓  
三等 拾圓  
四等 五圓  
特製福祿便箋 空籤ナシ  
福祿ストロップ販賣代理店  
平町五丁目  
釜屋商店  
阿部石炭商店

# 秋刀魚の大群 近海に迫る

## 磐城丸の調査報告

小名濱水産試験場の磐城丸は目下三陸沖合で秋刀魚漁場の調査中であるが最近入った無電報告に依ると現在三陸沖合八十哩の地点に水温十六度の海流に乗つた秋刀魚群は本月中旬から下旬にかけて愈々魚群の先頭は石城沖に姿を見せる模様なので同場では豊漁を豫想して昨年試作した秋刀魚の煙製及び蒲焼罐詰の大量生産を行ふべく待期して居る

## 禁獵區設定

植田、勿來兩町獵友會は勿來關附近の山林に禁獵區を設けて雉山鳥其の他の繁殖を計り本月十五日より解禁となる狩獵期より實施する案を建て縣保安課に申請したが禁獵區域は勿來關から川部村に向つて長さ二里幅一里のものであると

## 神宮豫選競技で 石城二種目に優勝

### きのふ縣青年体育大會

縣聯合青年團體大會は明治神宮大會豫選をも兼ね昨六日午前九時より福島市營グラウンド(陸上競技)福師武道場(柔剣)で開催されたが本郡選手の成績左の如く陸上競技、柔道に壓倒的得点を獲得して優勝したが總得点で惜しくも第一位を若松に奪はれた

△陸上競技(砲丸投) 2伊藤雄雄(走高跳) 2花澤保夫(走巾跳) 4草野道雄(百米) 3柏原武三(四百米) 1大谷岸雄 五十四秒六(一萬米) 3佐藤武壽(千五百米) 1小池敬一

四分二十六秒「大會新記録」(千米瑞典競争) 1石城一八 坂本誠 加藤鐵雄 二分九秒

(各郡得点) 石城三八 信夫一八 伊達一三 若松一一 東白川九

△武道(柔道) 石城一一 伊達九 信夫八 若松七 個人優勝 1阿部文平 4白井晃 劍道 得点ナシ

△相撲(各郡得点) 若松一一 東白川一二 信夫一八 双葉一一 石城九 個人優勝 5鈴木幸七

## 滿洲國から 通信員募集

多忙の平紹介所  
平職業紹介所へ今度は滿洲國から軍用通信所要員五十五名の斡旋方を申込んで来た應募資格は帝國在郷軍人に限り品行方正、身體強健なもので他に雇傭員は非技術熟練者でも前記條件の他に事務堪能者なれば可であると採用の上は滿洲國軍人又は軍屬となり初給七〇圓以上九〇圓で宿舍は給與される由で希望者は同所に照

## 臨時列車も繰出し 川前へ觀楓客

### 鐵道當局大童の宣傳

平驛では夏井川溪谷の紅葉シーズンも愈々迫り既記の如く仙臺放送局より状況放送が行はれる事となつたので觀楓客輸送の爲め本月十三、十七、廿、廿七、十一月三日、十日の六日間には川前小川郷間江田信號所に臨時停車を行ひ更に遠地よりの觀楓客には廿一日から十月廿日迄東京市各驛と水戸平間各驛より川前驛間に往復二割引の乗車券を發行して便宜を計つて居る

## 石炭試堀 新鑛區許可

東京市麴町區丸の内一丁目關東燃料株式會社出願に係る本郡入遠野、上遠野兩村地下七十八萬六千五百〇坪の石炭試堀願が此程許可された尚磐崎村高木富彦氏出願の耶摩郡吾妻村、一安達郡高川兩村地下三十七萬九千二百坪の金銀試堀願も許可となつた

## 入山・磐炭軍力闘

### 南奥羽神宮豫選に

### 青野君新記録

南奥羽神宮出場豫選に出場した入山、磐炭兩陸上競技選手は左の成績で入選したが青野輝夫君は砲丸投に十三米六の大會新記録を出した

△男子砲丸投決勝 1青野輝夫(入山) 十三米六△男子走高跳 2森山東吾(入山) 一米六〇△男子三段跳 1丹野富士男(入山校) 一三米六五△男子百米決勝 3宇野恒男(磐炭)

△男子百米 1木澤博 決勝 2佐藤吉雄(入山) 一十八秒五

## 滞納縣稅の 整理斷行

### 多忙の出張所

既報平縣稅務出張所では十年度前期分の縣稅滞納整理の爲め去月七日、廿六日の二回に亘つて水戸、三阪、澤渡、田入、入遠野、山間部落の滞納額約一萬圓の整理を行つたが同地方は意外の不況で三千圓の現金を除いては全部強制處分に附せられたが同所では更に平地部落の整理に着手した

## 運動會

### 好晴のけふ賑ふ

平第三小學校の第六回秋季大運動會は今七日午前八時より同校々庭で舉行されたが絶好の秋晴れに恵まれ全校児童激湧として躍動各種目に觀衆を微笑ませ午後三時約八十回のプログラムを無事終了萬歳三唱して閉會した

## 平一校優勝

### 八百米繼走に

双葉中學校秋季運動會の呼物小學校兒童八百米繼走に出場した平第一校尋常科選手は五十八秒四の好タイムで再び優勝旗を獲得した尚高等科選手はスタート反則で惜敗した

## 磐女優勝

### 走幅の五十石嬢

磐女陸上競技選手權大會へ出場した磐女陸上競技部

の花形五十石剛子さんは女子走幅跳に優勝見事神宮出場権を獲得した

## 日用品物價

白米	一等	一キロ	二二〇
	二等		二一五
	三等		二一〇
白麥			一七〇
平麥			一七〇
味噌		一貫目	五五〇
醬油		一升	四〇〇
清酒			一〇〇〇
檜丸		一貫目	二二五
木炭	檜割		二二〇
	雜丸		二一〇
砂糖	赤	百匁	一五〇
	白		一三〇
豚肉	並		四〇〇
	上		二五〇
牛肉	並		五〇〇
	上		四〇〇

## 平町人事

△出 生  
△紺屋町一三 田卷隆一氏  
△二男英二  
△鐵道官舎 三戸佐助氏三

## 男弘章

### 平職業紹介所報告

回人を求める方

- △旅館女中 卅才迄 尋卒 以上 給面談
- △食堂女中 廿三才迄 尋卒 住込月六圓
- △粕入夫 廿九才迄 月十圓
- △官署入夫 五十才迄 日給七十錢
- △人絹女工 尋卒 日給卅錢
- △人絹男工 高卒 日給五十錢以上
- △植字工 高卒 廿五才迄 月給廿五―卅圓

回職を求むる方

- △給仕 十八才 高卒
- △外交員 卅一才 高卒
- △同 廿六才 高卒
- △雜役 廿四才 甲種商卒
- △硝子商店員 廿二才 高卒
- △雜役 廿六才 尋四修
- △絹糸男工 廿一才 尋卒
- △同 十九才 高卒

平町通電話五五五番  
玉屋洋品店

# 三坂村の山中で 區長さん怪死

## 他殺の嫌疑濃厚

### 平署で活動開始

三坂村大字下三坂字日向の區長白石清次(五)は去る五日午後八時頃國有林拂下の調査員東京警務署の淺熊某氏を訪問すると家を出た儘行衛不明となつたので家人が心當りを捜査中昨六日午後二時頃同村字山中地内山林で茸狩をして居た澤渡村大字下市萱の鈴木タケ(三)さんが仰向けになつて居る老人死體を發見駐在所員に急報し同村白石醫師が診斷の結果首に外傷あり他殺の疑があるとの報告に昨夜十

### 急行

### 死体を解剖

右事件につき現場に出張中の柴警部補は七日午後一時一旦歸署柴田署長並に檢事局と打合の上藤沼醫師同道再び現場に急行死體の解剖を附するが他殺の疑は濃厚となつた

## 秋・家出人續々

### 平署へ捜査願四件

その一：宮城縣刈田郡白石町大字白石字清水小路二加藤彌市方小林福治(三)さんは去る二月廿六日午前六時頃商用で相馬中村町に行くと自轉車で外出したまゝ行方不明となつたが最近風評で平町にゐるらしいからと七十五才の老母から  
その二：四倉町字本町渡邊ヨシ(三)さんは昨六日午後八時頃隣家へ平町に所用で行くと夫が留守中外出し

その四：伊達郡福田村大字羽田字寺尾敷九保實父佐久田要五郎(五)さんは去月廿九日無断家出捜査中のところ平地方に立ち入つた形跡があるので昨より何れも平署へ七日捜査を願出た

## 川前の縊死体は 内郷の男と判明

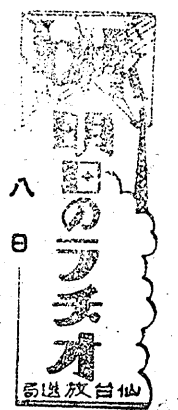
### 覺悟の自殺らしい

既報上小川江田地内山林の縊死體は平署より安藤、菊地兩部長出張檢視の結果所持せる立憲政友會内郷支部幹事囑託状により昭和七年頃内郷村宮に居住した水本龜太郎(五)と判明死の前夜同所旅人宿黒澤ハル方に木村某と偽名して投宿同夜五六通の手紙を何處へか差出した事實があり多分覺悟の自殺と見られてゐるが引取人なく假埋葬に附した

## 鯛の大漁

### 忙しい製造屋

小名濱、江名町等の鯛粕製造工場は原料の鯛が天候不順で不漁續きだったので製



今晚の部  
今晩悪明日も北東の風幾分悪くなる

今晚の部  
後六、〇〇 子供の時間  
名作物語「國性爺合戦」東京放送児童研究會  
後六、二五 基礎英語講座  
岡倉由三郎  
後七、三〇 講演「偉大な青年志士橋本左内」海軍大將加藤寛治  
後八、〇〇 琵琶 高野旭  
跡があるの件より何れも平署へ七日捜査を願出た

## 腹癒せに 盗み返す

### 青年平署に御用

草野村大字下神谷字池田二生れ同字芳賀辯之助雇人大森勇(三)は去月四日警中體育大會を見物中穿いて行つた靴を何者かに窃取された口惜さに神谷村字鎌田鈴木菊雄の編上靴一足時價九圓を窃取した事發覺し目下平署で取調中である

## 經濟更生對策に 村民の借金調べ

### 鹿島村で廿八萬圓

十年度經濟更生指定村の鹿島村では村内二百八十戸に對しこの程借財調べを行つたところ全村二十八萬餘圓個人別に見れば最高一萬圓餘、最低十圓程度で皆無のもの八名あり借財の大半は七年前の同村大火に依つた借金が最も多く此の借財額は他町村に比し比較的小額の由である

## 災害地調査

### 原技手來郡

縣土木課の原技手は郡下に於ける本年度災害復舊地の實地査定のため昨五日派遣したので同氏は一週間に亘つて災害工事箇所を踏査する

## 精算を説諭

### 平署へ願出

平町一丁目帝國火災保險代理店比佐信太郎は代理店勘定清算金を本社に支拂はず本年三月中平署の斡旋で毎月五圓の割賦金を支拂ふことを約して解決したが其の後四月と五月の二回實行した丈で何回となく請求するも支拂はぬため整理上困

## 平裁判だより

△石城郡三坂村大字中三坂字向三三農折内義治(三)は去月十六日亡弟の妻が私通と偽り三坂村役場へ届出をせし事發覺今七日平區より戸籍原本不實記載で略式罰金二十圓に處された

## 七十圓近し

### 狂騰の四倉藪市況

四倉藪市場に於ける五日の取扱千二百八貫、六日千二百三貫で五日の最高六十六圓五十錢、最低五十三圓二十錢、買馴六十三圓八十錢六日は最高六十九圓七十錢の驚異的再高騰を示し最低五十六圓五十錢、買馴六十





# 明治太平記

(無断転載)  
上及下流

(作) 寺島雄史  
(監) 野口

## 第二百四十四回

### 自嘲 (三)

板小屋がならんでゐる。くりからもんくの雲助上りの人足や印半天のいなせな大工や石工がそれらの立場で働いてゐる。

舊い日本の土地のうへに開化の道をひらき、砂利を敷き枕木をならべ、レールとレールをつぎ合せる仕事……彼等にはそれが自分たちの生活にどんな結果を齎すかてんでわからないのだ。

新橋から横濱までレールをのびして、その上を陸蒸汽が通るのでと役人たちに説明されても、その陸蒸汽とはどんな形の乗物か、チヨン番思想の人民たちには見當がつかない。人や貨物を迅速に運搬する文明開化の陸蒸汽を——鐵路を開通させるために、政府は非常な經濟上の犠牲を拂つてゐるのだと、大藏少輔あたりの訓示をかきかされてもたゞ頭をさけてかきこまるだけで、國民の希望で鐵路を敷設するといふ新政府の聲明もどうやら根據が怪しいのだつた。

人や貨物を迅速に運搬して、それが何の利益になるか。と、いふ疑問はひとり、くりからもんくの雲助たちのみではなく、人足上工を使役してゐる役人たちの



口からさへ洩れるほどだつた。

——西洋人は横濱の居留地から東京へ出てくるのに車やお馬車や時間がかゝるし、そのまた車屋やお馬車の別當が日本だからいつどんなひどい目にあふかしない。そこで西洋人たちが政府をそののかして、鐵

路を敷かせることになつたのだ。つまり西洋人を保護するために陸蒸汽を走らせるといふ寸法さ。かういふ解釋をなすものもなかにはあつた。これは日本人を人間と信じ、西洋人をけだものとおもつてゐるやはりチヨン番思想から吐き出される、かなしい自尊心の片われなのだ。西洋人が日本人をおそれてゐる……とおもふのは、それはいまだに市中市外を横行する素浪人が官員さんにも頭をさげてゐる平民どもの考

做すればよい。さういふ意味での鐵路敷設だつたのだ。政府の高官だつて雲助上りの人足だつて「人や貨物を迅速に運搬するの利益」を明答し得ないことは御同様だつた。しかし鐵路はぐんぐん、のびつゝあつた。神奈川からと新橋からと双方からハンマーの音高く鶴鳴は深く上に喰入り、文明開化の凱歌をあげつゝ忠實にイギリス人技師エドモンド・モレルの指揮にしたがつて行進をつづけてゐる品川の丁場はいはゞこの開化の行進曲の一短章の役

目をうけたまはるものだ。多くの人足、土工、石工、大工たちはそれら一つの短音となつてハンマーを握り鶴鳴を振る。人民の利益のために、まだ見ぬ陸蒸汽の形態をいろいろに想像しながら、役人たちのさし圖どほりに働いてゐる。これ等の柔順な労働者たちにはなれた素浪人たちが扶持にはなれた素浪人たちが尻を端折つて平民と同様にひそかに砂利運びをやつてゐるものもあつた。



## 靈効散 胃腸藥

秋は天高く馬肥えと申しますね。否馬ばかりではありませんが、人間も夏の炎暑から開放なつて食欲の増す時季でありますから、随つて健康な人は肥えを參ります。然るに不幸にして胃腸の弱い人は、此の自然の恩恵に浴す事出来ず益々弱つて行きます。左様な不幸な人を救ふには靈効散と言ふ靈藥があることを御存知ですか。三年五年の慢性胃腸病の全快した人は澤山あります。胃腸病、心臓病、肺病、痔等を痛む人は明日と言はず今日直ぐ御試下さい。御望の方には御試用として見本藥を阿康藥局で差上ります。御遠慮なく御來局下さい。他店では見本藥差上げません是非左記へお出下さい

平町古鍛冶町縣社ノ下  
阿康藥局  
電話 四四四番  
振替口座東京三〇五番

## 木村外科専門醫院

花柳病科 専門  
電話三〇九番  
平町六丁目橋

## 貴方の御家庭に

お手不足は御座りませんか

## 本會を御利用下さい

直に家政婦を派出します

料金は極め低廉で  
御家庭の御家庭にお留守居番  
御病入の付添  
御事や雜用 年寄やお子さんの付添

## 派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二(電話二二番)

## 上原家政婦會

## 市原醫院

平町田町(電一四番)

外科 小兒科 市原卯太郎  
外科梅毒・淋病 市原三三男  
入院隨時

## 磐城共濟病院

(福島縣平町) 電話六四一番  
(電話六四一番) 藤尚輔

内 科	小 兒 科	産 婦 科	外 科	皮膚泌尿器病科	花柳病科	藥物療科
院長 石山謙郎	部長 佐藤尚輔	部長 黒澤廣	部長 大町久藏	部長 前澤正	部長 石山謙郎	部長 石山謙郎
部長 石山謙郎	部長 佐藤尚輔	部長 黒澤廣	部長 大町久藏	部長 前澤正	部長 石山謙郎	部長 石山謙郎
部長 石山謙郎	部長 佐藤尚輔	部長 黒澤廣	部長 大町久藏	部長 前澤正	部長 石山謙郎	部長 石山謙郎